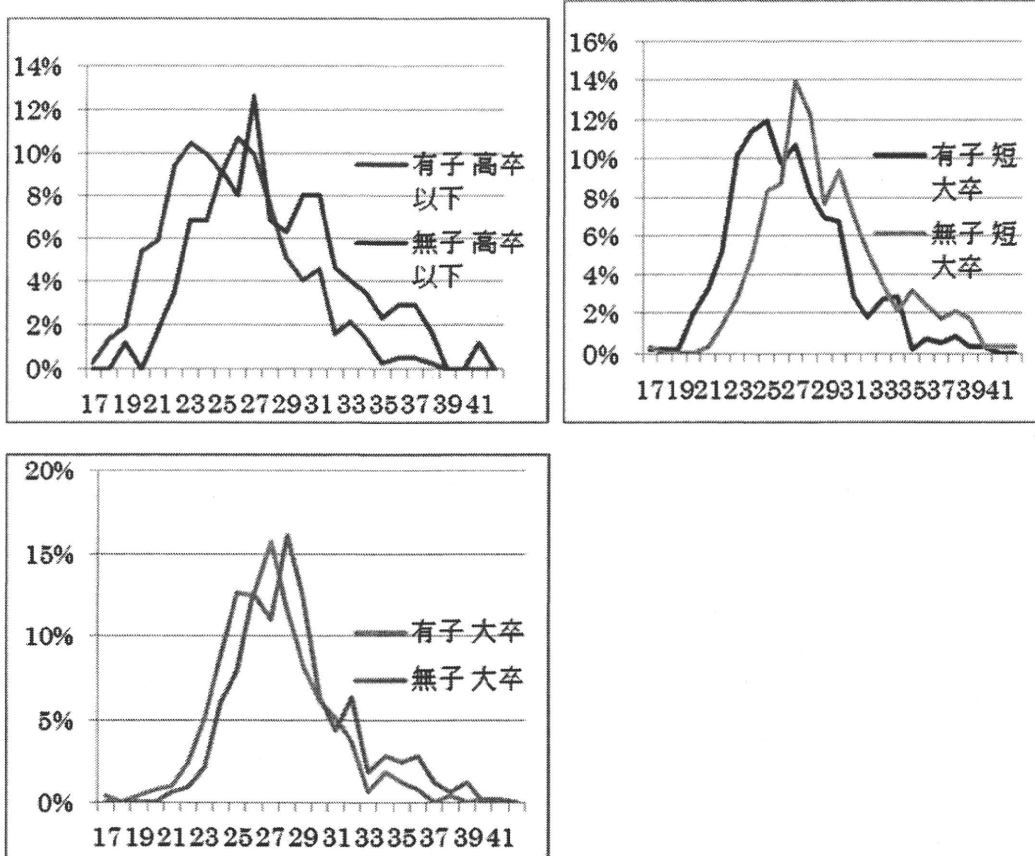


図表4 結婚年齢の学歴別分布



### 3. 4 仕事をしていて子どもを持たないことになったのかどうか

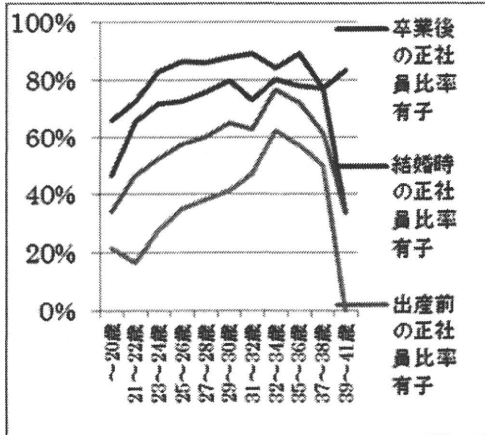
子どものいない女性は、仕事をしているうちに子どもを持つきっかけが持てなかったのだろうか。このデータは、現在無業の女性がないために、子どもを持って無業になった女性との対比ができない。しかし子どもを持って、かつ現在有業の女性との対比で、正社員比率を比べると、子どもを持たない女性の方が、子どもを持っている女性よりも、結婚直前の正社員比率が低いということが見いだされた。

図表5は、子どもがいる有配偶女性の結婚年齢別に、学校卒業後の正社員比率、結婚時の正社員比率、出産前の正社員比率、第1子1歳時の正社員比率をみたものである。ランダムサンプリングではないが、結婚年齢27-28歳では出産後の正社員継続が4割ほどであり、結婚年齢が30歳代前半になると、結婚そのものは大きく減るが、出産後の正社員継続は6割ほどまで高まる。仕事が好きである者の結婚が遅いのかもかもしれないし、あるいは、一定程度仕事を続けることで、出産後も企業に残ることが容易な立場を作れるのかもかもしれない。卒業時および結婚時の正社員比率は、結婚年齢によってさほど大きい差はないが、出産前の正社員比率は、結婚年齢が上がるほど上昇し、出産後の正社員比率も結婚年齢が上がるほど、34歳まで上昇し、その後結婚年齢が38歳まで高い水準を保つ。つまり子どもがいる場合、結婚年齢・出産年齢が遅いほど正社員比率が高い。

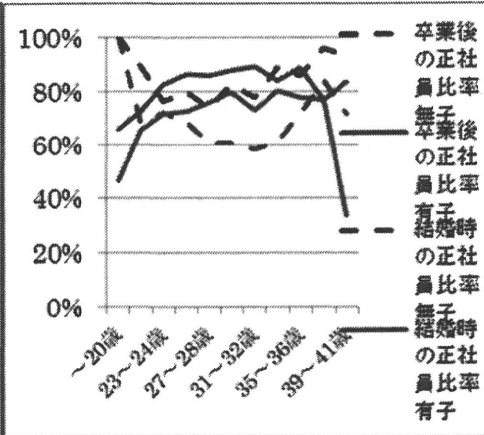
一方、子どものいる女性と子どものいない女性とで、卒業後、および結婚時の正社員比

率を比較したものが図表6である。結婚年齢が27歳から34歳までは、なぜか子どもを持たない女性は、子どもを持った女性よりも、（卒業後の正社員比率はわずかに低いだけだが）、結婚時の正社員比率は20%ポイント程度も低いものとなっている。

図表5 有子女性の結婚年齢別のライフコース上の正社員比率



図表6 有子女性と無子女性の学卒時、結婚時の正社員比率の比較



ここで、子どもを持たない女性の方が、むしろ就業意欲が低いのだろうか？これについては、すぐさまにこの解釈はつけられない。というのは、このサンプルは、子どもが12歳以下で有業の女性と、子どもがいない有業の女性との比較であり、子どもが12歳以下で無業の女性（かなりの割合の女性がいるが）が抜けているからである。

### 3. 5 夫の年収には差がないが、子どもを持たない女性は高めの年収

図表7から年収分布を見ると、30歳代後半以降の子どもがいない女性の年収は、有子女性よりも統計的に有意に高い。一方、男性については、有子か無子かで統計的に有意な年収差があるわけではない。子どもを育てていることで、妻の収入水準は30歳代後半以後下がっている。なお図表6-16には、正社員、非正社員、および子どもがいない女性という女性との就業形態別の平均賃金を示した。子どものいない女性の非正社員割合が比較的高い一方で、同じ就業形態の中では、子どものいない女性の方が平均賃金は高い。

図表7 有配偶無子者および有子者の本人および夫の年収平均

|       |       | 無子   |     | 有子   |      | 無子有子合計 |      |
|-------|-------|------|-----|------|------|--------|------|
|       |       | 本人収入 | 夫収入 | 本人収入 | 夫収入  | 本人収入   | 夫収入  |
| 25-30 | 平均    | 214  | 447 | 194  | 440  | 204    | 443  |
|       | 標準偏差  | 151  | 188 | 138  | 187  | 144    | 187  |
|       | サンプル数 | 179  | 179 | 210  | 210  | 389    | 389  |
| 31-35 | 平均    | 197  | 502 | 194  | 492  | 195    | 495  |
|       | 標準偏差  | 159  | 215 | 170  | 211  | 167    | 213  |
|       | サンプル数 | 274  | 274 | 583  | 583  | 857    | 857  |
| 36-40 | 平均    | 298  | 560 | 241  | 544  | 258    | 549  |
|       | 標準偏差  | 199  | 257 | 191  | 236  | 195    | 242  |
|       | サンプル数 | 190  | 190 | 466  | 466  | 656    | 656  |
| 41-45 | 平均    | 325  | 586 | 241  | 563  | 278    | 573  |
|       | 標準偏差  | 232  | 308 | 225  | 249  | 231    | 277  |
|       | サンプル数 | 139  | 139 | 172  | 172  | 311    | 311  |
| 合計    | 平均    | 248  | 518 | 215  | 510  | 227    | 513  |
|       | 標準偏差  | 190  | 244 | 182  | 224  | 185    | 231  |
|       | サンプル数 | 782  | 782 | 1431 | 1431 | 2213   | 2213 |

#### 4. 追加的に子どもを持つ希望

子どもがいない場合も、これから子どもを持つ予定の者もいるはずだ。そこでこの節では、追加的に子どもを持つ希望について見る。もう生むつもりはない、あと1人、あと2人、あと3人、あと4人などが選択肢である。

図表8のとおり、20歳代後半で子どものいない女性の6割が、2人の子どもをほしいとし、2人以上を希望する者が全体の8割を超える。一方、子どもを持つつもりがない者は10%にとどまる。しかし30歳代前半で子どもがいない女性になると、2人を希望する者は46%となり、2人以上は55%に下がる。子どもを持つつもりはないも22%に上昇する。30歳代後半で無子の女性になると、52%が子どもを生むつもりはないとし、40歳代になると、その数字は8割に上昇する。有子者を含めて、30歳代後半になると女性の出産意欲は大きく下落する。

図表8 希望する追加子ども数

|       | 無子       |      |      |      |      |       |
|-------|----------|------|------|------|------|-------|
|       | もう生むつもりは | あと1人 | あと2人 | あと3人 | あと4人 | 計     |
| 25-30 | 10%      | 17%  | 60%  | 12%  | 1%   | 179   |
| 31-35 | 22%      | 23%  | 46%  | 9%   | 0%   | 274   |
| 36-40 | 52%      | 27%  | 20%  | 1%   | 0%   | 190   |
| 41-45 | 77%      | 18%  | 5%   | 0%   | 0%   | 139   |
| 合計    | 285      | 170  | 277  | 47   | 3    | 782   |
|       | 有子       |      |      |      |      |       |
| 25-30 | 40%      | 47%  | 11%  | 1%   | 0%   | 210   |
| 31-35 | 60%      | 34%  | 5%   | 1%   | 0%   | 583   |
| 36-40 | 75%      | 23%  | 2%   | 0%   | 0%   | 466   |
| 41-45 | 92%      | 8%   | 0%   | 0%   | 0%   | 172   |
| 合計    | 942      | 420  | 62   | 6    | 1    | 1,431 |

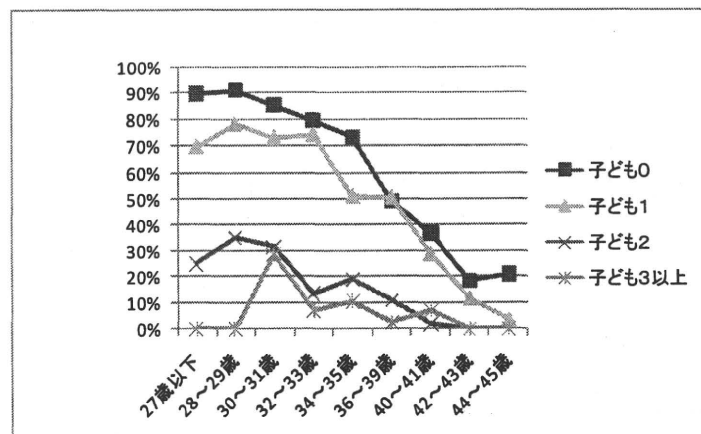
図表9は子どもを希望する場合、いつ頃子どもを生みたいかについての回答である。30歳代後半で子どもがいなかった場合は、半数は子どもをこれから持ちたいとし、その74%はできるだけ早くとしている。また40歳代で子どもがいなかった場合、その23%が子どもを持ちたいとし、その81%はできるだけ早くと希望しているがまだかなえられていない。

図表9 子どもを希望する者の妊娠の時期の希望

|       | 無子      |             |          |       | 計   | 追加で子どもをほしい者の割合 |
|-------|---------|-------------|----------|-------|-----|----------------|
|       | できるだけ早く | しばらく間をおいてから | 特に考えていない | 現在妊娠中 |     |                |
| 25-30 | 48%     | 22%         | 20%      | 10%   | 161 | 90%            |
| 31-35 | 61%     | 14%         | 16%      | 9%    | 213 | 78%            |
| 36-40 | 74%     | 8%          | 9%       | 10%   | 91  | 48%            |
| 41-45 | 81%     | 0%          | 16%      | 3%    | 32  | 23%            |
| 合計    | 299     | 72          | 80       | 46    | 497 | 64%            |
|       | 有子      |             |          |       |     |                |
| 25-30 | 34%     | 47%         | 6%       | 13%   | 126 | 60%            |
| 31-35 | 43%     | 33%         | 16%      | 7%    | 233 | 40%            |
| 36-40 | 61%     | 22%         | 11%      | 6%    | 116 | 25%            |
| 41-45 | 93%     | 0%          | 0%       | 7%    | 14  | 8%             |
| 合計    | 227     | 162         | 59       | 41    | 489 | 34%            |

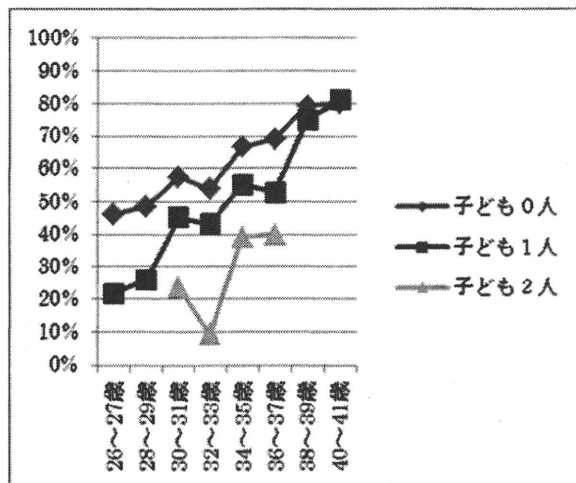
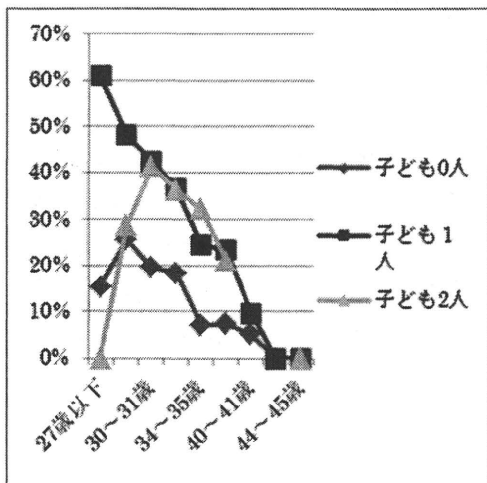
図表10は、今後子どもを持つ予定があるとした者の年齢階級別の割合である。既存子ども数が0、および1の場合、20歳代では子どもを持ちたいという意欲は高いものであるが、30歳代後半になると大きく下がり、42歳以上になると多くの女性が追加で子どもを予定しなくなる。すでに子どもが2人いる場合も、妻が31歳までをみると、3割がさらにもう一人を予定している。しかし年齢が30歳代後半になるにつれて追加出生意欲は大きく下落する。

図表10 現在年齢と追加出産子ども希望の有無



図表 11 と図表 12 は、子どもを予定しているとした者の中で、「しばらく間をおいてから」と回答した者と、「すぐに」と回答した者の既存の子ども数別にみた現在年齢階級別の割合である。27歳以下で子どもが1人いる女性については「しばらく間をおいてから」が6割と高いのは、第1子の子育てに忙しいからであろう。一方、子どものいない女性では、「しばらく間をおいてから」は仕 28-29 歳層がピークであるが、それでも3割弱程度であり、それほど高くはない。加齢とともに、子どもをほしい者では、「すぐに」ほしいと回答する者が大きく増える。同じ年齢層では、子どもが1人もいない場合に、「すぐに」を希望する者の割合はより高い。

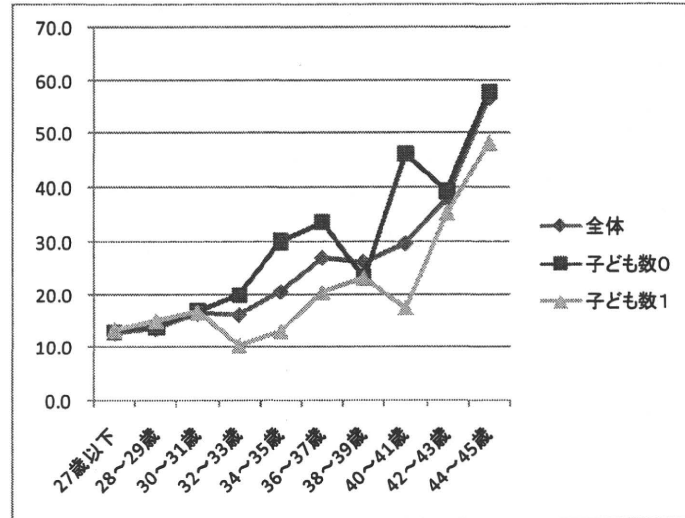
図表 11 「しばらく間をおいてから」 子どもを予定する者の割合  
 図表 12 「できるだけ早く」 子どもを予定する者の割合



## 5. 不妊の問題

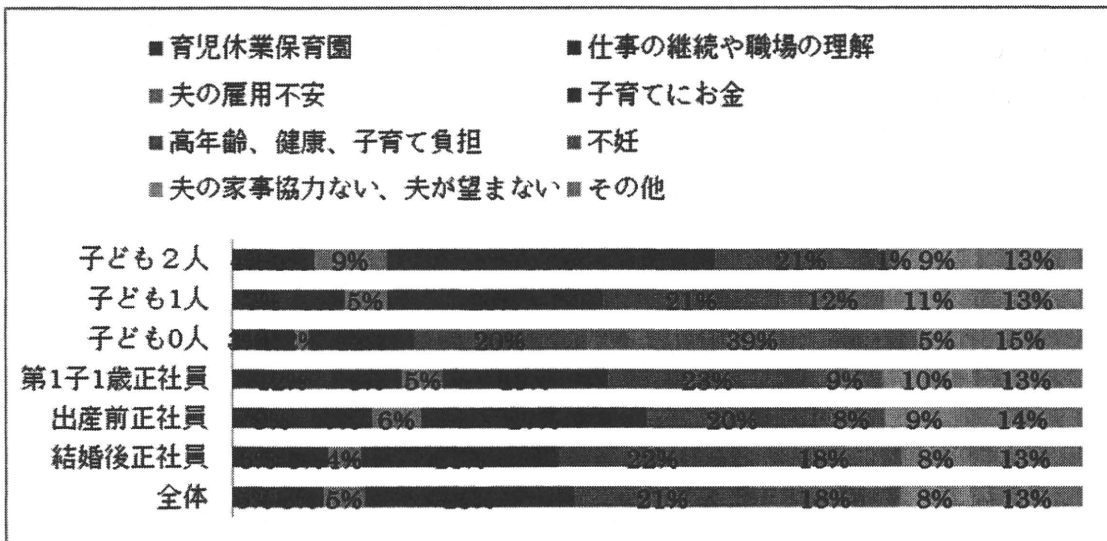
図表 13 は子どもをすぐにほしいと希望してから、子どもができないでいる期間である。28~29 歳層から 38~39 歳層までは、1セル 20 名以上いるので、一定数以上はいる。子どもがいない女性は、すでに子どもが1人いる女性と比べると、32 歳から 37 歳でみると受胎を待つ期間が平均で 10 か月程度長い。30 歳以上で第1子を持つ女性の中には、妊娠しにくい者がいるものと推察される。

図表 13 「すぐに」子を希望ほしいと希望してから子どもができないでいる期間



持つつもりの子どもの数が理想とする子ども数より少ない理由への回答者は全体の1割程度にすぎないが、図表 14 のとおり、子ども数0の女性が1人目をもてない最大の理由は4割が不妊を挙げている。子どもが2人いる者が3人目を持たない最大の理由は、4割が子育てにかかるお金の負担を挙げている。どの属性の者にも2割程度いるのが、高年齢や健康問題、子育て負担などを最大の理由とする者である。また職場要因や育児休業保育園などの問題が最大の問題と回答している者は多くはないが、第1子を生み正社員を継続した者で2割程度おり、正社員を継続して育児休業をとりながら、第2子まで持つことはやや難しい面があるとうかがわれる。

図表 14 持つつもりの子どもの数が理想とする子ども数より少ない最大の理由



## 6. 子どものいない有女性と子どものいる有業女性の生活満足度

### 6.1 生活満足度

子どものいない女性と子どものいる女性とで、仕事の満足度と家庭のバランス満足度、夫婦関係満足度、生活全般の満足度を比較する。子どものいない有配偶女性、子どもがいない35歳以上の（将来的にも子どもを持たない可能性が高い有配偶女性）、第1子が3歳以下の有配偶女性、第1子が10歳以上の有配偶女性について、正社員の仕事を持っている者、正社員でない仕事を持っている者で比較した。

図表15は「仕事の満足度」である。不思議なことに、子どものいない正社員の女性の方が満足度が低い。子どものいない女性の方が仕事に対する期待が高いのかもしれないし、男女格差をより感じるのかもしれない。また子どものいる正社員は、仕事を継続できたという周囲の配慮への感謝の気持ちから、満足度が高いのかもしれない。一方、非正社員は賃金水準は低いのだが、満足度は高い。

仕事の満足度別に女性本人の年収平均を出したところ、図表16のとおり、興味深い結果を得られた。図示した図表17を見よう。正社員の場合、「仕事が満足」である者は平均的に賃金が高い者であった。ただし子どものいる女性は、子どものいない女性よりも低い平均賃金水準でも「満足」と回答している。このため子どものいる女性の方が低い賃金水準でもって仕事に満足しているように見受けられる。

一方、非正社員については、正社員と異なり、平均賃金と満足の関係はU字型である。満足が高いほど賃金が高いという関係が、「どちらともいえない」から「満足」までは見られる。しかし一方で、「不満な者」も「どちらともいえない」よりも平均賃金は再び高いのである。非正社員の中で賃金に満足な者は、非正社員の中で比較的賃金が高く、非正社員の中で認められているから満足なのではないだろうか。一方、非正社員の中で不満な者は、おそらく比較的責任のある仕事をするからこそ賃金が高いのだろうが、その自身の賃金を正社員と比較しているので不満なのではないだろうか。だから非正社員の中では賃金が高い方であっても不満である。子どものいない非正社員の女性については、賃金が高いほど不満という関係がより顕著に見られた。

図表15 子どものいる有配偶女性、子どものいない有配偶女性の仕事の満足度

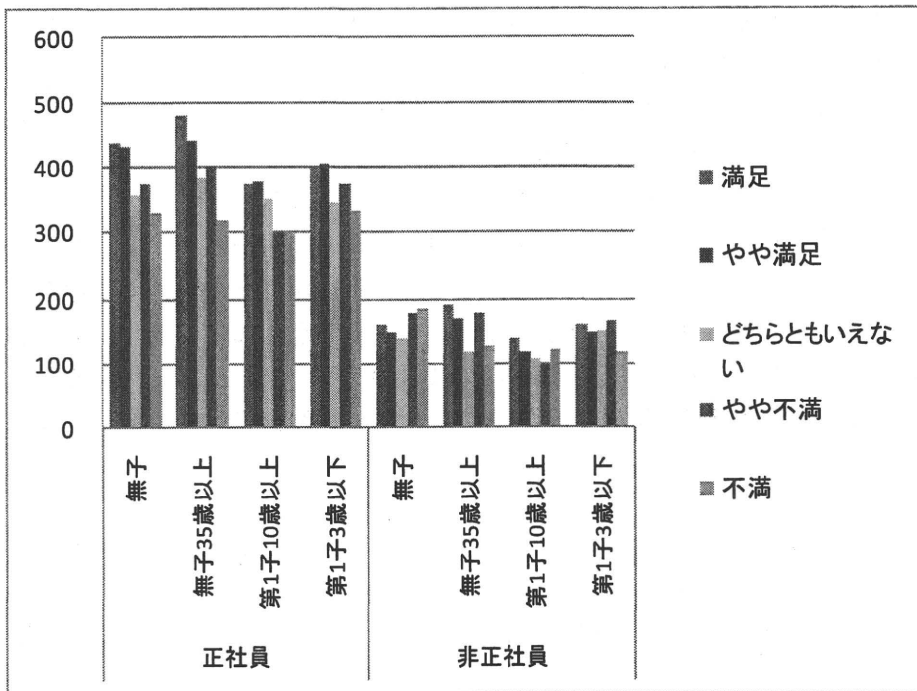
|           | 正社員 |         |          |         | 非正社員 |         |          |         |
|-----------|-----|---------|----------|---------|------|---------|----------|---------|
|           | 無子  | 無子35歳以上 | 第1子10歳以上 | 第1子3歳以下 | 無子   | 無子35歳以上 | 第1子10歳以上 | 第1子3歳以下 |
| 満足        | 10% | 8%      | 18%      | 14%     | 19%  | 22%     | 19%      | 19%     |
| やや満足      | 41% | 37%     | 40%      | 45%     | 36%  | 37%     | 35%      | 35%     |
| どちらともいえない | 23% | 27%     | 17%      | 18%     | 19%  | 15%     | 18%      | 18%     |
| やや不満      | 17% | 18%     | 19%      | 17%     | 19%  | 19%     | 18%      | 17%     |
| 不満        | 8%  | 10%     | 5%       | 6%      | 8%   | 7%      | 11%      | 11%     |
| サンプル数計    | 296 | 196     | 93       | 231     | 486  | 174     | 215      | 187     |

図表 16 子どものいる有配偶女性、子どものいない有配偶女性の  
仕事の満足度別の本人の年収平均 (万円)

|           | 正社員 |         |          |         | 非正社員 |         |          |         |
|-----------|-----|---------|----------|---------|------|---------|----------|---------|
|           | 無子  | 無子35歳以上 | 第1子10歳以上 | 第1子3歳以下 | 無子   | 無子35歳以上 | 第1子10歳以上 | 第1子3歳以下 |
| 満足        | 439 | 479     | 375      | 401     | 160  | 190     | 139      | 161     |
| やや満足      | 432 | 441     | 376      | 405     | 148  | 169     | 119      | 147     |
| どちらともいえない | 357 | 384     | 351      | 344     | 140  | 117     | 107      | 152     |
| やや不満      | 374 | 402     | 297      | 374     | 179  | 179     | 98       | 166     |
| 不満        | 327 | 317     | 302      | 333     | 186  | 127     | 120      | 117     |
| サンプル数     | 296 | 196     | 93       | 231     | 486  | 174     | 215      | 187     |
| 平均        | 397 | 409     | 352      | 384     | 158  | 164     | 117      | 151     |

図表 17 は、図表 16 をグラフ化したものである。

図表 17 子どものいる有配偶女性、子どものいない有配偶女性の  
仕事の満足度別の本人の年収平均のグラフ (万円)



図表 18 は「仕事と生活のバランスの満足度」である。ここでも、全般に非正社員の満足度が高い。第1子が3歳以下で子育てが大変な時期には、やや不満および不満が正社員でも非正社員でも高く、第1子が10歳以上になると、不満はやや減少している。一方、子どもがいない女性でも正社員については、仕事と家庭のバランスに不満と回答する者は減るものの、満足と回答している人が、子どもがいない者に比べて大きくは増えるわけではない。



図表 18 子どものいる有配偶女性、子どものいない有配偶女性の  
仕事と生活のバランスの満足度

|           | 正社員 |         |          |         | 非正社員 |         |          |         |
|-----------|-----|---------|----------|---------|------|---------|----------|---------|
|           | 無子  | 無子35歳以上 | 第1子10歳以上 | 第1子3歳以下 | 無子   | 無子35歳以上 | 第1子10歳以上 | 第1子3歳以下 |
| 満足        | 13% | 11%     | 13%      | 10%     | 19%  | 20%     | 20%      | 15%     |
| やや満足      | 37% | 34%     | 35%      | 35%     | 43%  | 40%     | 38%      | 34%     |
| どちらともいえない | 22% | 27%     | 20%      | 22%     | 17%  | 18%     | 21%      | 20%     |
| やや不満      | 21% | 21%     | 25%      | 29%     | 15%  | 17%     | 14%      | 21%     |
| 不満        | 7%  | 7%      | 6%       | 6%      | 5%   | 5%      | 7%       | 10%     |
| サンプル数計    | 296 | 196     | 93       | 231     | 486  | 174     | 215      | 187     |

図表 19 は「夫婦関係満足度」である。子どものいない女性の夫婦関係満足度が特に高いことが注目される。子どもがいない女性は、正社員でも非正社員でも全体では、30%以上が「満足」と回答している。子どもがいる女性については「満足」は14%から20%である。また「正社員」と「非正社員」に注目すると、子どものいる非正社員の方が「不満」も高いが「満足」も高い。

子どもが生まれることが、仕事を持つ女性の夫婦関係満足度を引き下げている可能性がある。夫の育児や家事分担の少なさや、妻の負担の多さが関連するのではないだろうか。

図表 19 子どものいる有配偶女性、子どものいない夫婦関係  
満足度

|           | 正社員 |         |          |         | 非正社員 |         |          |         |
|-----------|-----|---------|----------|---------|------|---------|----------|---------|
|           | 無子  | 無子35歳以上 | 第1子10歳以上 | 第1子3歳以下 | 無子   | 無子35歳以上 | 第1子10歳以上 | 第1子3歳以下 |
| 満足        | 31% | 26%     | 14%      | 19%     | 34%  | 30%     | 20%      | 20%     |
| やや満足      | 35% | 33%     | 41%      | 37%     | 41%  | 41%     | 27%      | 30%     |
| どちらともいえない | 21% | 24%     | 27%      | 24%     | 14%  | 17%     | 27%      | 21%     |
| やや不満      | 8%  | 11%     | 15%      | 13%     | 8%   | 9%      | 12%      | 17%     |
| 不満        | 5%  | 6%      | 3%       | 6%      | 3%   | 4%      | 14%      | 12%     |
| サンプル数計    | 296 | 196     | 93       | 231     | 486  | 174     | 215      | 187     |

図表 20 は、「生活全般の満足度」である。これも、子どものいない女性の方が全般に「満足」が高い。子どもがいる非正社員の有業女性は、「不満」が10%程度とはいえ、もったも高い。子どもがいない女性は「満足」が20%程度ともっとも高い。

図表 20 子どものいる有配偶女性、子どものいない有配偶女性の生活全般の満足度

|           | 正社員 |         |          |         | 非正社員 |         |          |         |
|-----------|-----|---------|----------|---------|------|---------|----------|---------|
|           | 無子  | 無子35歳以上 | 第1子10歳以上 | 第1子3歳以下 | 無子   | 無子35歳以上 | 第1子10歳以上 | 第1子3歳以下 |
| 満足        | 19% | 15%     | 11%      | 14%     | 21%  | 19%     | 13%      | 15%     |
| やや満足      | 42% | 41%     | 45%      | 46%     | 43%  | 44%     | 39%      | 30%     |
| どちらともいえない | 25% | 29%     | 23%      | 23%     | 20%  | 22%     | 23%      | 26%     |
| やや不満      | 11% | 12%     | 18%      | 14%     | 14%  | 11%     | 13%      | 19%     |
| 不満        | 3%  | 4%      | 3%       | 3%      | 3%   | 4%      | 12%      | 10%     |
| サンプル数計    | 296 | 196     | 93       | 231     | 486  | 174     | 215      | 187     |

## 6. 2 生活満足度の規定要因

子どもがいる女性と子どもがいない女性の満足度の差はどの程度他の要因を考慮しても残るのか、4つの満足度の因子分析を行い、「生活・夫婦満足」、「仕事の満足」という2つの因子を抽出、スコアを計算し（図表 21）、この2つの満足度の高さの簡単な線形モデルでの要因分析を行った。

図表 21 満足感の因子分析

|            | 生活・夫婦満足 | 仕事の満足  | Uniqueness |
|------------|---------|--------|------------|
| 仕事満足       | 0.242   | 0.6156 | 0.5624     |
| 仕事家庭バランス満足 | 0.3467  | 0.6056 | 0.513      |
| 夫婦満足       | 0.7262  | 0.1689 | 0.4441     |
| 生活全般満足     | 0.7288  | 0.3335 | 0.3577     |

因子分析からのスコア

|            | 生活・夫婦満足  | 仕事の満足    |
|------------|----------|----------|
| 仕事満足       | -0.05098 | 0.39624  |
| 仕事家庭バランス満足 | 0.0089   | 0.39743  |
| 夫婦満足       | 0.42537  | -0.12011 |
| 生活全般満足     | 0.45632  | 0.07078  |

図表 22 は最小自乗法での推計結果である。有業の有配偶女性について、「生活・夫婦満足」は、子どもがいることで大きく下がることが示されている。いったん子どもができると満足は下がるが、その中では子ども数が増えるほど満足は高まる。加齢は「生活・夫婦満足」を引き下げ、夫年収の増加はこれを引き上げる。また夫の家事時間が長いほど、夫婦満足は上昇する。昇進をするには残業や転勤が必要と感じているかどうか、という変数を加えて入れてみたが、それほど安定した効果はなかった。

図表 22 生活・夫婦満足の要因分析

|             | 係数       | t 値       | 係数       | t 値       |
|-------------|----------|-----------|----------|-----------|
| 子どもあり       | -0.47977 | -8.15 *** | -0.47292 | -8.02 *** |
| 子ども数        | 0.08100  | 2.64 ***  | 0.07969  | 2.59 ***  |
| 年齢          | -0.01725 | -4.77 *** | -0.01761 | -4.84 *** |
| 夫年収         | 0.00049  | 6.48 ***  | 0.00048  | 6.36 ***  |
| 妻年収         | 0.00013  | 0.99      | 0.00015  | 1.19      |
| 現在正社員       | 0.03930  | 0.58      | 0.04290  | 0.63      |
| 現在パートアルバイト  | 0.03719  | 0.58      | 0.03960  | 0.62      |
| 現在派遣        | -0.05591 | -0.68     | -0.05510 | -0.67     |
| 現在契約社員      | 0.16750  | 1.65 *    | 0.17018  | 1.67 *    |
| 自分の家事時間     | -0.00012 | -0.74     | -0.00011 | -0.69     |
| 夫の家事時間      | 0.00122  | 3.63 ***  | 0.00124  | 3.66 ***  |
| 夫は昇進に残業が必要  |          |           | -0.02298 | -0.61     |
| 自分は昇進に残業が必要 |          |           | -0.07549 | -1.66 *   |
| 夫は昇進に転勤が必要  |          |           | 0.03081  | 0.73      |
| 定数項         | 0.5091   | 3.5 ***   | 0.52724  | 3.59 ***  |
| サンプル数       | 2213     |           | 2213     |           |
| 疑似決定係数      | 0.0802   |           | 0.0807   |           |

注) 有意水準 \*\*\* 0.1%、\*\* 1%、\*10%

図表 23 は、仕事満足（仕事・仕事と家庭のバランス）である。仕事の満足に子どもがいるかどうかは関係がなかった。夫や妻の賃金が高いことは仕事満足を引き上げること、またパート・アルバイトであることは、フルタイムの雇用に比べて満足を引き上げること、自身の家事時間が長いほど仕事（仕事・仕事と家庭のバランス）満足が下がることなどがわかるが、このモデルの説明力は高くなかった。

図表 23 仕事の満足（仕事・仕事と家庭のバランス）の要因分析

|             | 係数       | t 値      | 係数       | t 値      |
|-------------|----------|----------|----------|----------|
| 子どもあり       | -0.05503 | -1.03    | -0.04967 | -0.93    |
| 子ども数        | 0.05169  | 1.85 *   | 0.05051  | 1.81 *   |
| 年齢          | -0.00564 | -1.72 *  | -0.00537 | -1.63    |
| 夫年収         | 0.00019  | 2.74 *** | 0.00017  | 2.42 **  |
| 妻年収         | 0.00028  | 2.42 **  | 0.00032  | 2.73 *** |
| 現在正社員       | -0.04461 | -0.72    | -0.04560 | -0.74    |
| 現在パートアルバイト  | 0.17690  | 3.06 *** | 0.17430  | 3.02 *** |
| 現在派遣        | 0.05355  | 0.71     | 0.04811  | 0.64     |
| 現在契約社員      | 0.01514  | 0.16     | 0.01874  | 0.2      |
| 自分の家事時間     | -0.00030 | -2.12 ** | -0.00030 | -2.13 ** |
| 夫の家事時間      | 0.00053  | 1.72 *   | 0.00056  | 1.84 *   |
| 夫は昇進に残業が必要  |          |          | 0.00583  | 0.17     |
| 自分は昇進に残業が必要 |          |          | -0.07581 | -1.83 *  |
| 夫は昇進に転勤が必要  |          |          | 0.08446  | 2.21 **  |
| 定数項         | -0.00620 | -0.05    | -0.02100 | -0.16    |
| サンプル数       | 2213     |          | 2213     |          |
| 疑似決定係数      | 0.0171   |          | 0.0191   |          |

注) 有意水準 \*\*\* 0.1%、\*\* 1%、\*10%

## 7. おわりに

子どものいない有配偶有業女性を子どものいる有配偶有業女性と比較して取り上げた。まず就業状況をみると、学校卒業直後の正社員比率はほとんどかわらない。しかし現在については、34—45歳層をみると子どもを持たない女性の正社員比率は子どもを持つ女性の正社員比率よりも10%ポイント程度高いものとなっている。また同じ年齢層、同じ就業形態内を比較すると、妻の年収についても、子どもを持たない女性の方が、高い年収となっている。

しかし子どもを持たない女性が、子どもを持たないで仕事を続けることを自分にとって望ましい働き方のパターンだとして自ら選びとったというよりも、そのような結果となったという見方がより妥当と見られる。子どもを持たないまま年齢が30歳代後半から40歳代前半になると、女性の子どもの追加で持とうという意欲は大きく下がる。また子どもを持ちたい者については、なるべくすぐに持ちたいという意欲が高まる。

子どものいない女性はなぜ子どもを持たないことになったのだろうか。子どものいない女性は子どものいる女性に比べて、全般に結婚年齢が高めである。しかし分布の差は明確にはあるものの、特段に大きいものではない。結婚年齢の上昇は子どもを持たないこととなる一因かもしれないが一因にすぎないだろう。子どもがほしいと希望してから子どもができるまでの期間は、子どもができないまま時間が経過すれば、それだけ長期化する。理想の子ども数が予定子ども数と異なる理由については回答者の10%程度しか回答していない項目であるが、子どもがいない者の場合は、不妊を4割が回答している。

女性にとって、子どもを持つということは、医療技術が進歩したとはいえ、現実には、20歳代後半から30歳代前半までが中心の限られた時間の活動であることを思い知らされ

る。

しかしながら、生活全般の満足度、夫婦関係満足度をみると、実は子どものいない有業女性の方が「満足」が高い。特に夫婦関係は、子どもがいる有業女性よりもはるかに良好である。また「仕事と家庭のバランスの満足度」を見ると、正社員よりも非正社員の方が高い。さらに「仕事の満足度」が子どものいない正社員がもっとも高いかという点、不思議なことに低いのである。仕事の満足度、生活・夫婦関係満足度の指標を作成し、これを被説明変数とすると、多変量解析では、生活・夫婦関係満足度は、他の要因を考慮した後にも、子どもがいないことがこの指標を引き上げていた。また正社員だから仕事（仕事および仕事と家庭のバランス満足度）が下がるということにはなかったが、パート・アルバイトの方が高い傾向が見られた。

子どもを持たない者よりも子どもを持った者の方が夫婦関係が良く、生活満足度も高いのではないかと考えたが、データはその逆であった。このデータは、子どもがいない有業有配偶女性と、子どもが12歳以下の有業有配偶女性との比較である。子どもを持って有業を続けることの女性への負担の重さを考えざるを得ない。これらの生活・仕事満足度は、夫の家事時間が長いほど上がり、また仕事満足度は、自身の家事時間が長いほど下がるというこれを裏付ける結果が見られた。

このデータは、有配偶であり、かつ有業である女性だけのデータという点では、人口全体はとらえていないという点でデータの限界がある。子どもがいる女性、いない女性ともに、無業者が少なからぬ割合いるからである。また子どもがいない場合には夫婦関係が悪い夫婦が容易に離別しているとすれば、結果として夫婦関係が良く見えるのかもしれない。ランダムサンプリングデータで確認する必要がある。

## 第7章 学歴・企業規模別にみた結婚・出産前後の女性の就業継続

守泉 理恵

### はじめに

日本では、1990年代から様々な少子化関連施策が展開されてきたが、「仕事と家庭の両立」支援という視点は当初から取り上げられていた。1990年代前半は「女性の仕事と家庭の両立支援」という考え方であり、そのための保育サービスの拡充という図式が主なものであった。その後、90年代後半には、固定的な性別役割分業意識や仕事優先の企業風土なども含めた「働き方の見直し」という、より幅広い視点が前面に出されてきた。最初は「ファミリー・フレンドリー」という言葉に象徴されるように、子どもを持つ労働者に対する両立支援という面が強調されたが、やがて配偶関係や家族構成にかかわりなく、労働者の「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」という視点で働き方を見直そうという動きにつながった。

こうして、「仕事と家庭の両立支援」と言われ始めてから2009年で20年ほどの時間が経過したことになるが、結婚・出産を経た女性の就業継続状況は変わってきただろうか。依然として第1子出産前後で働く女性の7～8割は退職するという大勢に変化は見られず（国立社会保障・人口問題研究所 2007a）、むしろ若年層ほど出産退職が増えているという指摘もあるが（今田 1996；新谷 1998；永瀬 1999；岩澤 2004）、育児休業取得率の上昇や、子どものいる有業の有配偶女性の微増（守泉 2008）といった動きも少しずつ見え始めており、仕事と子育ての両立が広まっている層が出てきていると推測される。

一般に、仕事と家庭の両立を支援する制度は、民間企業であれば中小企業より大企業で充実している傾向があり、また、官公庁も女性の就業継続がしやすい職場であると言われている。2003年に制定された次世代育成支援対策推進法では、301人以上の企業と地方自治体に、社員・職員の子育てを支援する行動計画の策定を義務付けており、ほぼ100%の届け出率を達成した。一方、働く女性の側も、両立志向は高まっており、特に大卒女性で理想のライフコースは「（仕事と家庭の）両立コース」とする女性が増えている（国立社会保障・人口問題研究所 2007b）。よって、大卒・大企業正社員の層から仕事と家庭の両立が広まり始めている可能性がある。

以上の点をふまえ、本稿では、第13回出生動向基本調査（国立社会保障・人口問題研究所）の個票データを使用して、年齢、学歴、就業形態、企業規模などの属性別に結婚・出産と女性の就業継続状況が異なるかどうか、クロス集計を行って観察し、どの層で両立行動の割合が高いのかについて基礎的分析をおこなう。なお、本稿における「大企業」という分類は、次世代法に準拠して従業員300人以上の企業とし、これに官公庁を含めるものとする。

### 1. 女性の就業状況の変化

第二次世界大戦後、日本経済の高度成長とサービス化に伴って女性の就業機会は拡大し、

賃金水準も上昇してきた。しかし、女性の生涯の労働供給行動は、結婚・出産という個人的なライフイベントと密接な関連をもっている。これを如実に表すといわれるのが、日本や韓国などに独特の M 字型労働力率である。日本の女性の年齢別労働力率は、30 代前半を谷とする M 字型を描く。これは、最終学校卒業後、就職し、結婚・出産・子育てによって労働市場から退出する女性が多いことを示唆している。そして、子育てが一段落する 40 歳代で、再び労働市場に戻ってくる。1975～2005 年にかけて、M 字の山は高く、谷は浅くなったが、これは高い労働力率を持つ未婚者の割合が高まったことと、有配偶の労働力率が上がったことによる。

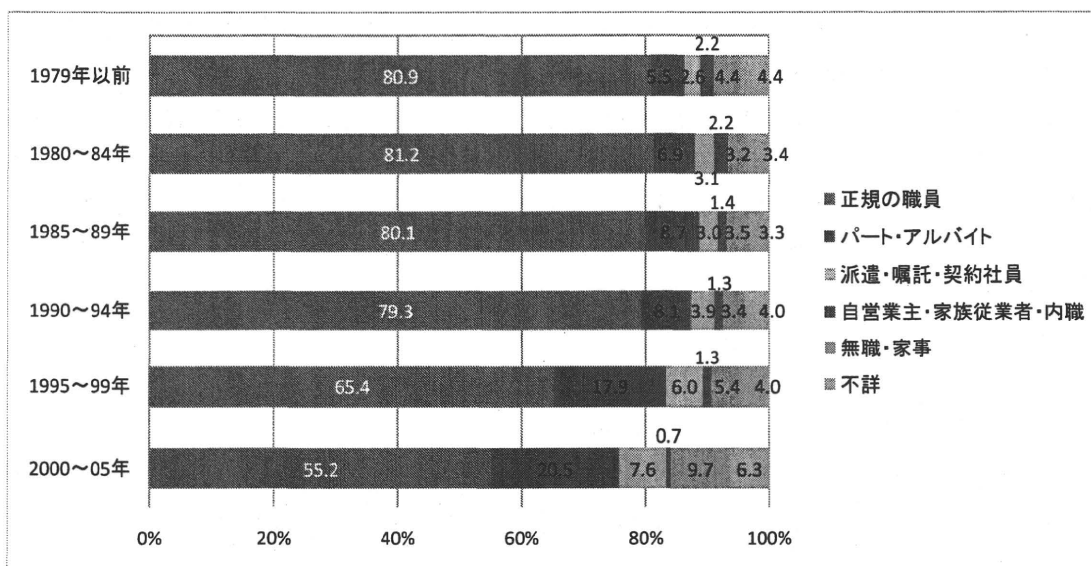
また、1990 年代以降の女性就業に関する顕著な動きとして、非正規労働の広がりがある。『就業構造基本調査』（総務省）における女性の非正規労働者割合の推移によると、1990 年代後半以降、急速に拡大している。女性雇用者に占める非正規就業者の割合は、1987 年に 37.1% だったのが、2007（平成 19）年の調査では 55.2% に達した。女性雇用者の 2 人に 1 人は非正規労働に就いているという状況である。

パート、アルバイトを中心とした非正規就業は、有配偶女性が家計補助として選ぶ就業形態であった。しかし今日では、学校卒業直後の未婚女性にも非正規就業が広がっている。図 1、図 2 は学卒直後の就業状況、つまり初職の状況について、卒業年別および年齢別にみたものである。

1990 年代前半までは、学卒者が初めて就く仕事の 8 割は「正社員」であった（図 3）。ところが、バブル経済崩壊後の長期不況の中で新卒雇用の大幅な縮小が起こり、初職で正社員に就く女性の割合は 1995～99 年に 65.4%、2000～05 年では 55.2% と減少した。一方、初職が非正規の女性の割合は 1995～99 年に 17.9%、2000～05 年に 20.5% と急増している。2000～05 年には、無職・家事の割合も 9.7% へ拡大している。

また、2005 年時点の年齢別にみると（図 2）、30 歳代未満（1976 年以降生まれ）で初職が非正規である割合が大幅に拡大しており、20 歳代前半では約半数の 51.9% に達している。

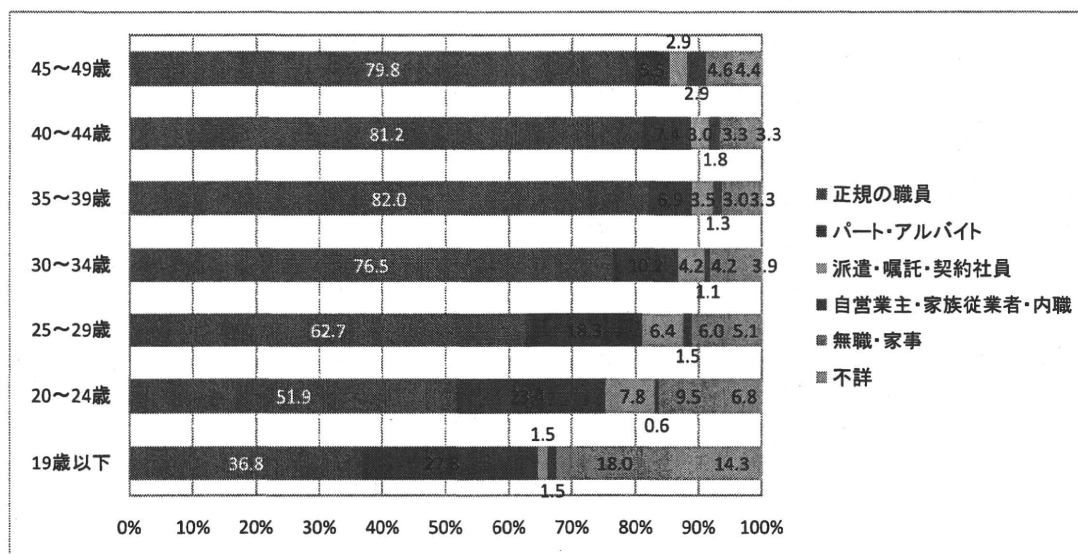
図1 卒業年別にみた、学卒直後の就業状況



注) 学生を除く割合。

資料) 「出生動向基本調査」第13回(2005年)の夫婦調査・独身者調査を合わせた特別集計。

図2 年齢別にみた、学卒直後の就業状況



注) 在学中の者を除く割合。

資料) 「出生動向基本調査」第13回(2005年)の夫婦調査・独身者調査を合わせた特別集計。

初職の状況を学歴別にみると、中卒と高卒以上で大きな違いが見られる。中卒では、高卒以上と比べて正規の職員の割合が非常に低いが、45～49歳層の49.3%から、20～24歳では7.9%にまで激減している。30歳未満の若い層では、パート・アルバイトを中心に非正規就業が約半数を占め、無職・家事も2割いる。高卒以上では、30歳代以上と20歳代以下で変化が見られる。初職の正規職への就業が8割前後を占めていた30歳代以上では、正規の職員の割合は、大学・大学院卒より高卒、専修卒、短大・高専卒で高い傾向にある。



大学・大学院卒は、正規職就業者の割合が低い分、非正規就業割合が高めになっている。40歳代以上では、大卒女性は無職・家事の割合も高い。大卒女性の場合、卒業時点ですでに22歳以上であり、結婚の予定を控えている人もいることが影響しているとみられる。

しかし、学卒直後の初職が非正規という人が増え始めた世代に当たる20歳代では、高卒や短大・高専卒の女性と大卒女性の正規就業割合の差がかなり縮まった。派遣等の形態も合わせた非正規就業割合では、高卒・短大卒・大卒で同じくらいの割合になってきている。パート・アルバイトでは、むしろ高卒や短大卒より大卒の女性で割合が小さくなっている。特に高卒者の変化が大きく、30歳代以上では1割に満たなかった初職パート・アルバイトの女性は、20歳代では2～3割に及んでいる。

表1 学歴別にみた、学卒直後の就業状況

| 年齢     | 学歴     | 標本数 | 総数    | 正規の職員 | パート・アルバイト | 派遣・嘱託・契約社員 | 自営業主・家族従業者・内職 | 無職・家事 | 不詳   |
|--------|--------|-----|-------|-------|-----------|------------|---------------|-------|------|
| 20～24歳 | 中学校    | 38  | 100.0 | 7.9   | 47.4      |            | 5.3           | 23.7  | 15.8 |
|        | 高校     | 348 | 100.0 | 43.4  | 32.8      | 4.3        | 0.3           | 10.6  | 8.6  |
|        | 専修     | 163 | 100.0 | 58.3  | 17.8      | 9.2        | 1.2           | 6.7   | 6.7  |
|        | 短大・高専  | 226 | 100.0 | 62.4  | 16.4      | 9.3        | 0.4           | 6.6   | 4.9  |
|        | 大学・大学院 | 201 | 100.0 | 57.7  | 15.4      | 12.4       | 0.0           | 10.0  | 4.5  |
| 25～29歳 | 中学校    | 28  | 100.0 | 17.9  | 42.9      | 3.6        | 3.6           | 21.4  | 10.7 |
|        | 高校     | 439 | 100.0 | 61.7  | 22.8      | 1.8        | 2.1           | 5.0   | 6.6  |
|        | 専修     | 203 | 100.0 | 74.9  | 11.3      | 4.9        | 2.0           | 3.0   | 3.9  |
|        | 短大・高専  | 387 | 100.0 | 64.3  | 17.6      | 7.5        | 0.5           | 4.7   | 5.4  |
|        | 大学・大学院 | 356 | 100.0 | 59.3  | 15.7      | 11.8       | 1.7           | 8.7   | 2.8  |
| 30～34歳 | 中学校    | 65  | 100.0 | 23.1  | 36.9      | 7.7        | 3.1           | 16.9  | 12.3 |
|        | 高校     | 720 | 100.0 | 77.1  | 9.7       | 2.5        | 1.0           | 4.6   | 5.1  |
|        | 専修     | 235 | 100.0 | 79.1  | 11.5      | 3.4        | 1.3           | 3.0   | 1.7  |
|        | 短大・高専  | 547 | 100.0 | 82.8  | 6.9       | 3.8        | 0.9           | 2.7   | 2.7  |
|        | 大学・大学院 | 323 | 100.0 | 73.7  | 10.5      | 8.7        | 0.9           | 4.0   | 2.2  |
| 35～39歳 | 中学校    | 74  | 100.0 | 40.5  | 29.7      | 4.1        | 5.4           | 12.2  | 8.1  |
|        | 高校     | 791 | 100.0 | 83.6  | 7.1       | 2.0        | 0.9           | 2.3   | 4.2  |
|        | 専修     | 258 | 100.0 | 82.2  | 5.4       | 4.3        | 1.9           | 3.1   | 3.1  |
|        | 短大・高専  | 465 | 100.0 | 86.5  | 5.2       | 2.6        | 0.9           | 2.8   | 2.2  |
|        | 大学・大学院 | 274 | 100.0 | 82.8  | 4.4       | 7.3        | 1.5           | 2.9   | 1.1  |
| 40～44歳 | 中学校    | 44  | 100.0 | 38.6  | 29.5      | 6.8        |               | 13.6  | 11.4 |
|        | 高校     | 837 | 100.0 | 84.5  | 5.6       | 2.2        | 1.3           | 2.7   | 3.7  |
|        | 専修     | 224 | 100.0 | 82.1  | 5.4       | 0.9        | 3.6           | 2.2   | 5.8  |
|        | 短大・高専  | 415 | 100.0 | 84.1  | 7.7       | 2.7        | 1.2           | 2.9   | 1.4  |
|        | 大学・大学院 | 246 | 100.0 | 72.4  | 10.6      | 7.7        | 2.8           | 4.9   | 1.6  |
| 45～49歳 | 中学校    | 73  | 100.0 | 49.3  | 13.7      | 2.7        | 4.1           | 15.1  | 15.1 |
|        | 高校     | 765 | 100.0 | 86.0  | 2.1       | 1.4        | 2.5           | 2.9   | 5.1  |
|        | 専修     | 148 | 100.0 | 79.1  | 8.8       | 2.0        | 2.0           | 4.7   | 3.4  |
|        | 短大・高専  | 408 | 100.0 | 80.1  | 6.9       | 3.9        | 2.2           | 4.4   | 2.5  |
|        | 大学・大学院 | 229 | 100.0 | 69.4  | 9.6       | 6.1        | 5.7           | 6.1   | 3.1  |

注)学生を除く割合。

資料)「出生動向基本調査」第13回(2005年)の夫婦調査・独身者調査を合わせた特別集計。

企業規模別にみると、学歴の差は顕著に現れる。表2は、初職が正規職の女性のうち、従業員300人未満の企業に就職した人と300人以上の企業に就職した人の割合を示したものである。大学・大学院卒の場合、それ以下の学歴の女性に比べて大企業および官公庁に入る人の割合が多い。しかも、大卒の場合は、20歳代の若い層でも、正規職に就いた女性のうち6割が大企業へ入っている。短大以下の学歴の女性では、若い層になるほど300人

未満の中小企業に入る割合が高くなっている。

表2 年齢・学歴別にみた初職の就業先従業員規模：初職が正規職の女性

| 年齢     | 学歴     | 標本数   | 総数    | 300人未満<br>の企業 | 300人以上の<br>企業・官公庁 |
|--------|--------|-------|-------|---------------|-------------------|
| 20～24歳 | 中学校    | 3     | 100.0 | 100.0         |                   |
|        | 高校     | 147   | 100.0 | 72.8          | 27.2              |
|        | 専修     | 91    | 100.0 | 74.7          | 25.3              |
|        | 短大・高専  | 136   | 100.0 | 77.2          | 22.8              |
|        | 大学・大学院 | 111   | 100.0 | 39.6          | 60.4              |
|        | 合計     | 488   | 100.0 | 67.0          | 33.0              |
| 25～29歳 | 中学校    | 5     | 100.0 | 60.0          | 40.0              |
|        | 高校     | 253   | 100.0 | 70.4          | 29.6              |
|        | 専修     | 151   | 100.0 | 64.2          | 35.8              |
|        | 短大・高専  | 243   | 100.0 | 67.5          | 32.5              |
|        | 大学・大学院 | 208   | 100.0 | 41.8          | 58.2              |
|        | 合計     | 860   | 100.0 | 61.5          | 38.5              |
| 30～34歳 | 中学校    | 12    | 100.0 | 75.0          | 25.0              |
|        | 高校     | 531   | 100.0 | 52.5          | 47.5              |
|        | 専修     | 182   | 100.0 | 69.8          | 30.2              |
|        | 短大・高専  | 441   | 100.0 | 47.8          | 52.2              |
|        | 大学・大学院 | 235   | 100.0 | 48.5          | 51.5              |
|        | 合計     | 1,401 | 100.0 | 52.8          | 47.2              |
| 35～39歳 | 中学校    | 30    | 100.0 | 83.3          | 16.7              |
|        | 高校     | 624   | 100.0 | 54.2          | 45.8              |
|        | 専修     | 206   | 100.0 | 68.0          | 32.0              |
|        | 短大・高専  | 390   | 100.0 | 49.0          | 51.0              |
|        | 大学・大学院 | 221   | 100.0 | 31.2          | 68.8              |
|        | 合計     | 1,471 | 100.0 | 51.9          | 48.1              |
| 40～44歳 | 中学校    | 15    | 100.0 | 73.3          | 26.7              |
|        | 高校     | 672   | 100.0 | 54.0          | 46.0              |
|        | 専修     | 180   | 100.0 | 62.2          | 37.8              |
|        | 短大・高専  | 339   | 100.0 | 50.4          | 49.6              |
|        | 大学・大学院 | 171   | 100.0 | 43.3          | 56.7              |
|        | 合計     | 1,377 | 100.0 | 53.1          | 46.9              |
| 45～49歳 | 中学校    | 30    | 100.0 | 76.7          | 23.3              |
|        | 高校     | 613   | 100.0 | 47.1          | 52.9              |
|        | 専修     | 114   | 100.0 | 73.7          | 26.3              |
|        | 短大・高専  | 314   | 100.0 | 59.9          | 40.1              |
|        | 大学・大学院 | 156   | 100.0 | 48.1          | 51.9              |
|        | 合計     | 1,227 | 100.0 | 53.7          | 46.3              |

注：学歴・初職の従業員規模不詳を除く。卒業者のみ。

資料) 「出生動向基本調査」第13回(2005年)の夫婦調査・独身者調査を合わせた特別集計。

## 2. 学歴、初職の正規・非正規、企業規模別にみた有配偶割合

学歴や初職の形態・企業規模によって結婚行動に差は見られるだろうか。年齢・学歴・初職の正規・非正規別に有配偶割合を集計したのが表3である。

高卒以上の学歴の女性で、初職が正規の職員である場合と、非正規である場合を比べると、30歳代の半ばくらいまでの層では初職が正規の女性の方が有配偶割合は高い傾向がある。それ以降の高年齢層では、その差はほぼなくなっている。学歴別では、30歳代半ばまでの若年層で大卒の有配偶割合は短大卒以下より低い、高年齢層では差は見られない。正規の職員について企業規模別にも集計してみると(表4)、中小企業と大企業ではあまり差はない。結婚行動に関しては、学歴や就業形態によって30歳代半ばくらいまでの若年層で有配偶割合の増え方が異なる傾向が見られる。

表3 学歴・初職の正規・非正規別にみた有配偶割合

| 現在年齢 | 初職が正規の職員 |       |       |       |       | 初職が非正規(パート・アルバイト、派遣社員等) |       |       |      |       |
|------|----------|-------|-------|-------|-------|-------------------------|-------|-------|------|-------|
|      | 大卒       | 短大卒   | 専修卒   | 高卒    | 中卒    | 大卒                      | 短大卒   | 専修卒   | 高卒   | 中卒    |
| 20   | —        | —     | —     | 5.4   | —     | —                       | —     | —     | 9.1  | 23.5  |
| 21   | —        | 3.3   | 8.1   | 9.0   | —     | —                       | 7.7   | 13.1  | 33.3 | —     |
| 22   | 1.8      | 4.0   | 4.5   | 18.6  | 100.0 | —                       | 6.5   | 11.1  | 25.5 | 44.4  |
| 23   | 2.7      | 14.7  | 11.8  | 33.3  | 66.7  | 5.7                     | 6.9   | 4.3   | 27.5 | 60.0  |
| 24   | 3.8      | 19.4  | 26.6  | 41.0  | —     | 18.8                    | 14.8  | 19.0  | 39.7 | 81.8  |
| 25   | 14.8     | 26.5  | 40.6  | 38.9  | 33.3  | 16.7                    | 22.6  | 47.6  | 30.4 | 54.5  |
| 26   | 24.5     | 26.1  | 40.8  | 57.6  | 25.0  | 17.9                    | 37.9  | 45.5  | 40.0 | 77.8  |
| 27   | 38.5     | 47.9  | 46.9  | 63.9  | 33.3  | 26.5                    | 40.5  | 12.5  | 53.8 | 70.0  |
| 28   | 42.6     | 58.5  | 59.0  | 65.1  | 44.4  | 30.8                    | 34.9  | 55.0  | 65.2 | 87.5  |
| 29   | 67.4     | 60.5  | 60.2  | 69.8  | 63.6  | 48.6                    | 52.6  | 68.4  | 65.8 | 54.5  |
| 30   | 57.4     | 61.7  | 74.0  | 75.3  | 62.5  | 42.9                    | 57.6  | 53.8  | 53.6 | 72.2  |
| 31   | 59.8     | 72.5  | 72.5  | 72.6  | 100.0 | 47.8                    | 68.4  | 63.6  | 62.2 | 69.2  |
| 32   | 69.0     | 75.7  | 76.1  | 80.1  | 63.6  | 43.8                    | 64.3  | 75.0  | 62.2 | 46.2  |
| 33   | 76.3     | 75.7  | 84.7  | 77.7  | 75.0  | 86.7                    | 83.3  | 57.1  | 76.7 | 73.3  |
| 34   | 79.5     | 82.1  | 74.0  | 78.8  | 55.6  | 75.0                    | 90.9  | 55.6  | 77.4 | 53.8  |
| 35   | 79.8     | 83.1  | 75.0  | 80.6  | 77.8  | 63.6                    | 93.3  | 80.0  | 76.9 | 87.5  |
| 36   | 80.2     | 83.8  | 84.8  | 84.7  | 76.2  | 81.0                    | 71.4  | 81.8  | 82.6 | 50.0  |
| 37   | 87.1     | 89.6  | 88.3  | 84.3  | 70.0  | 72.7                    | 89.5  | 69.2  | 72.7 | 60.0  |
| 38   | 81.3     | 88.3  | 81.4  | 84.6  | 85.7  | 70.6                    | 83.3  | 100.0 | 83.3 | 66.7  |
| 39   | 89.9     | 90.9  | 86.8  | 87.3  | 87.5  | 83.3                    | 71.4  | 90.9  | 70.0 | 66.7  |
| 40   | 91.4     | 83.6  | 82.7  | 81.8  | 93.3  | 87.5                    | 75.0  | 50.0  | 78.3 | 75.0  |
| 41   | 81.8     | 92.5  | 89.6  | 85.4  | 75.0  | 86.7                    | 73.7  | 100.0 | 75.0 | 75.0  |
| 42   | 87.0     | 84.7  | 87.0  | 86.4  | 84.6  | 100.0                   | 84.2  | 66.7  | 92.0 | 100.0 |
| 43   | 83.1     | 93.8  | 89.1  | 86.1  | 100.0 | 94.1                    | 81.8  | 33.3  | 81.0 | 100.0 |
| 44   | 87.9     | 91.5  | 90.8  | 88.8  | 93.3  | 84.6                    | 100.0 | 100.0 | 70.0 | 80.0  |
| 45   | 88.7     | 91.0  | 90.0  | 89.8  | 87.5  | 76.5                    | 94.4  | 66.7  | 89.5 | 75.0  |
| 46   | 91.7     | 89.8  | 85.7  | 86.5  | 84.6  | 86.7                    | 92.9  | 100.0 | 88.9 | 71.4  |
| 47   | 94.0     | 92.2  | 93.3  | 90.0  | 78.4  | 100.0                   | 84.2  | 100.0 | 84.6 | 66.7  |
| 48   | 76.0     | 86.5  | 90.2  | 88.7  | 87.2  | 100.0                   | 76.9  | 77.8  | 55.6 | 75.0  |
| 49   | 90.9     | 92.2  | 89.5  | 88.6  | 92.7  | 75.0                    | 100.0 | 100.0 | 75.0 | 100.0 |
| 総数   | 63.5     | 71.5  | 68.9  | 77.9  | 79.0  | 48.6                    | 53.3  | 49.1  | 55.3 | 64.4  |
| 標本数  | 2,218    | 3,948 | 2,066 | 6,947 | 390   | 611                     | 636   | 346   | 958  | 270   |

資料) 「出生動向基本調査」第13回(2005年)の夫婦調査・独身者調査を合わせた特別集計。

表4 学歴・初職の従業員規模別にみた有配偶割合：初職が正規の職員の女性

| 現在年齢 | 300人未満の企業 |       |      |       |       | 300人以上の企業・官公庁 |       |       |       |       |
|------|-----------|-------|------|-------|-------|---------------|-------|-------|-------|-------|
|      | 大卒        | 短大卒   | 専修卒  | 高卒    | 中卒    | 大卒            | 短大卒   | 専修卒   | 高卒    | 中卒    |
| 20   | —         | —     | —    | 9.5   | —     | —             | —     | —     | —     | —     |
| 21   | —         | —     | 9.1  | —     | —     | —             | —     | —     | —     | —     |
| 22   | —         | —     | 12.5 | 22.7  | 100.0 | 4.5           | —     | —     | 36.4  | —     |
| 23   | —         | 22.2  | —    | 29.2  | —     | 7.1           | —     | 16.7  | —     | —     |
| 24   | —         | 17.4  | 17.6 | 50.0  | —     | 11.1          | 16.7  | 21.4  | 28.6  | —     |
| 25   | 9.1       | 36.4  | 35.7 | 52.8  | —     | 6.3           | 5.9   | 33.3  | 44.4  | 100.0 |
| 26   | 33.3      | 26.9  | 33.3 | 50.0  | —     | 22.2          | 7.1   | 28.6  | 50.0  | —     |
| 27   | 33.3      | 45.9  | 37.5 | 69.6  | 50.0  | 47.6          | 50.0  | 37.5  | 76.9  | —     |
| 28   | 40.7      | 51.2  | 70.8 | 70.0  | —     | 52.0          | 40.0  | 66.7  | 45.8  | —     |
| 29   | 71.4      | 51.4  | 64.3 | 66.7  | —     | 59.3          | 20.0  | 75.0  | 56.7  | —     |
| 30   | 53.1      | 58.5  | 83.3 | 79.5  | —     | 76.2          | 73.7  | 80.0  | 67.6  | —     |
| 31   | 66.7      | 80.4  | 77.8 | 72.2  | 100.0 | 69.2          | 69.4  | 80.0  | 80.4  | —     |
| 32   | 77.4      | 69.8  | 78.3 | 80.4  | 50.0  | 72.2          | 72.3  | 71.4  | 77.6  | 100.0 |
| 33   | 50.0      | 81.8  | 87.0 | 74.1  | —     | 73.9          | 80.4  | 68.8  | 84.8  | 100.0 |
| 34   | 90.0      | 74.2  | 71.4 | 82.0  | 100.0 | 75.0          | 86.0  | 90.0  | 86.4  | 100.0 |
| 35   | 77.8      | 76.6  | 73.1 | 81.5  | 60.0  | 85.2          | 88.5  | 92.3  | 80.4  | —     |
| 36   | 50.0      | 82.4  | 82.4 | 81.7  | 83.3  | 85.4          | 87.9  | 78.6  | 79.2  | 100.0 |
| 37   | 87.5      | 90.5  | 94.1 | 85.1  | 85.7  | 92.6          | 94.3  | 100.0 | 84.1  | —     |
| 38   | 72.2      | 84.6  | 85.7 | 85.2  | 100.0 | 93.1          | 85.0  | 71.4  | 88.2  | —     |
| 39   | 100.0     | 88.5  | 83.3 | 79.0  | 100.0 | 90.0          | 93.3  | 90.0  | 77.9  | 66.7  |
| 40   | 88.9      | 76.7  | 87.0 | 78.7  | 100.0 | 89.5          | 91.9  | 95.0  | 88.1  | —     |
| 41   | 61.1      | 90.6  | 91.7 | 90.1  | 50.0  | 85.2          | 88.9  | 84.6  | 92.1  | —     |
| 42   | 93.8      | 81.3  | 87.0 | 86.2  | 100.0 | 89.5          | 91.7  | 92.9  | 92.2  | 100.0 |
| 43   | 88.2      | 97.0  | 93.8 | 84.3  | 100.0 | 83.3          | 80.6  | 75.0  | 86.2  | 100.0 |
| 44   | 76.9      | 83.9  | 87.5 | 89.4  | 66.7  | 86.7          | 94.9  | 88.9  | 85.1  | 50.0  |
| 45   | 87.5      | 97.7  | 90.5 | 88.0  | 100.0 | 93.8          | 96.0  | 90.9  | 93.3  | 50.0  |
| 46   | 94.1      | 89.4  | 85.7 | 80.4  | 75.0  | 85.0          | 77.8  | 100.0 | 83.3  | 0.0   |
| 47   | 92.9      | 92.5  | 93.3 | 85.5  | 100.0 | 95.0          | 95.2  | 100.0 | 82.0  | —     |
| 48   | 70.6      | 90.9  | 88.5 | 90.6  | 85.7  | 4.3           | 9.3   | 2.2   | 17.2  | —     |
| 49   | 87.5      | 95.0  | 83.3 | 97.2  | 100.0 | 100.0         | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 28.6  |
| 総数   | 62.4      | 69.4  | 71.8 | 77.1  | 80.8  | 47.8          | 60.8  | 55.0  | 67.5  | 50.0  |
| 標本数  | 455       | 1,013 | 618  | 1,523 | 59    | 862           | 1,022 | 373   | 1,520 | 30    |

資料) 「出生動向基本調査」第13回(2005年)の夫婦調査・独身者調査を合わせた特別集計。

### 3. 結婚・出産を経た就業継続状況

1990年代以降のさまざまな改革の動きの中で、結婚・出産後も就業継続する女性は増えたのだろうか。「出生動向基本調査」第13回調査(2005年)の夫婦調査データを用いて確認してみる。

表5 年齢別にみた、結婚前後の就業状況

| 妻の年齢   | 標本数   | 合計    | 就業継続   |      | 結婚後無職                |      |      | 再就職 <sup>2)</sup> |
|--------|-------|-------|--------|------|----------------------|------|------|-------------------|
|        |       |       | うち正規継続 | うち退職 | うち無職継続 <sup>1)</sup> |      |      |                   |
| 20～24歳 | 81    | 100.0 | 42.0   | 23.5 | 56.8                 | 35.8 | 21.0 | 1.2               |
| 25～29歳 | 373   | 100.0 | 58.4   | 37.5 | 41.0                 | 32.2 | 8.8  | 0.5               |
| 30～34歳 | 931   | 100.0 | 60.0   | 40.8 | 38.5                 | 32.2 | 6.2  | 1.5               |
| 35～39歳 | 1,165 | 100.0 | 59.3   | 39.7 | 39.7                 | 32.5 | 7.1  | 1.0               |
| 40～44歳 | 1,154 | 100.0 | 59.3   | 39.3 | 39.4                 | 34.0 | 5.5  | 1.3               |
| 45～49歳 | 1,108 | 100.0 | 57.5   | 40.8 | 41.2                 | 32.9 | 8.3  | 1.3               |
| 総数     | 4,812 | 100.0 | 58.7   | 39.7 | 40.1                 | 32.9 | 7.2  | 1.2               |

注) 初婚どうしの夫婦の妻について。「うち正規継続・退職・無職継続」は全体の標本数に対する割合。

1) 結婚を決めた時から無職であった女性。

2) 結婚を決めた時には無職であったが、結婚直後には就業していた女性。

資料) 「出生動向基本調査」第13回調査(2005年)の夫婦調査の特別集計。